# シラバス参照

タイトル「**2024年度スポーツ科学部(公開用)**」、フォルダ「**（共通）**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目ナンバー | RMGT/SSCS1140 | | |
| 科目名 | 政治学２ | | |
| 担当教員 | 日吉　秀松 | | |
| 対象学年 | 1年,2年,3年,4年 | 開講学期 | 前期 |
| 曜日・時限 | 金３ | | |
| 講義室 | 1201 | 単位区分 | 選 |
| 授業形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 科目大分類 | 総合教育 | | |
| 科目中分類 | 総合基礎 | | |
| 科目小分類 | 文化教養 | | |
| 科目の位置付け（開発能力） | ■ＤＰコード　学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連<br>DP1-D〔市民的素養・市民的教養〕 市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。<br>DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。<br>DP7-C〔他者理解・倫理観・公共心〕人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。<br>K　学識・専門技能<br>J　創造的挑戦力・達成力<br>K　表現力・対話力<br>■CRコード　学修を通じて開発するマイドセット・ナレッツ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連<br>C1倫理的思考・社会認識（20%）<br>D1市民的素養（20%）<br>E1学識と専門技能（20%）<br>I１理解・分析と読解（20%）<br>J１継続的学習基盤（10%）<br>K1ライティング・コミュニケーション（10%） | | |
| 教員の実務経験 | | | |
| 成績ターゲット区分 | ■能力開発の目標ステージとの対応　２進行期～３発展期 | | |
| 科目概要・キーワード | 現代の政治過程におけるさまざまな概念や事象について理解し、説明できる能力を養います。各自が本講義を通じて学びとったものを活用し、身近な問題はもちろん、現実政治がこれからも直面するであろう様々な危機に対して、多様な意見を許容しつつ、深遠かつ柔軟な発想で打開策をアウトプットできる市民となることを期待し、政治学の観点から多角的に考察します。授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果 的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授 業を一部取り入れる場合があります。<br>キーワード：選挙制度、全体主義、主権国家<br>授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 | | |
| 授業の趣旨 | ■副題<br>民主主義政治や非民主主義政治の特徴と国際政治の本質<br>■授業の目的<br>本講義では、政治学に関する基本的な概念、理論などを学び、実際の政治的な動向を観察し、分析する力を身に付け、市民参加のためのコミュニケーション能力を高め、よりいっそう政治に興味と関心をもたせることです。具体的には、近代社会の特徴、近代の主たる政治思想の歴史、それから、全体主義、権威主義や冷戦期における国際政治などについて基本的な知識を習得することをめざします。<br>■授業のポイント<br>戦後の国際政治は冷戦期において、自由主義と社会主義の対立によって、世界の平和が脅かされていました。しかし、冷戦後の世界は、グローバリゼーションの下で、新秩序を確立されないままで、対テロ戦争を理由に、アメリカが単独主義、さらに、孤立主義路線を取り始めました。こうした背景を踏まえて、本講義は、民主主義社会の政治過程とは何かについて説明し、日本の政治過程と結合しながら、選挙、圧力団体や市民団体、政治家、官僚、マスメディアなど政治的主体が、どのように政治に関与するかを具体的に説明し、また、旧ソ連、中国、北朝鮮などを実例として取り上げ、非民主主義体制である全体主義体制、権威主義体制の特徴についても説明したうえで国際政治、特に戦後の国際政治の変遷を検証します。 | | |
| 総合到達目標 | ■市民的素養やコミュニティの能力を高めるために、政治学の基本的概念を修得し、古代から近代までの政治社会の特質や諸問題をそこで生まれた代表的な政治思想を理解し、政治に関する基礎的な知識と政治について積極的・主体的思考する能力を身につける。<br>・政治学的知識を用いて、政党と圧力団体の違い、そして選挙制度の違いを説明することができる。（第1回~第４回）<br>・政治学的知識を駆使して、現代政治を論じることができる。（第5回~第10回）<br>・冷戦期の国際政治を理解したうえで、国際情勢を分析することができる。（第11回~第15回） | | |
| 成績評価方法 | ■授業内テスト1回（50%）:適用ルーブリック　C1 H1 H2<br>（評価の観点）授業の内容を踏まえて自分の意見を論理的に示せるかどうかを評価します。<br>（フィードバックの方法）出題の意図を説明し、解答の要点を示します。<br>■レポート１回 (20%):適用ルーブリック　C1 D1 K1 I1<br>（評価の観点）権力と関連するテーマで、学習者の思考力を確認し、授業の内容を踏まえて自分の考えを示せるかどうか、レポートの書き方の正確さを評価します。<br>(フィードバックの方法) 提出されたレポートをチェックし、課題の設定やレポートの書き方などについて説明します。<br>■リアクションペーパー（30%): 適用ルーブリック J1　K1<br>(評価の観点) 毎回の授業の振り返りによって、学習者の学習状況を確認し、自発性を持つかどうかを評価します。<br>(フィードバックの方法) 毎回の振り返りをチェックし、質問に対して回答します。 | | |
| 履修条件 | 政治学1を受講していることが望ましいです。 | | |
| 履修上の注意点 | | | |

授業内容

| 回 | 内容 |
|---|---|
| 1 | ①授業テーマ<br>ガイダンス(全体テーマ、授業の方法、成績評価の方法等の説明)、政党政治について説明する。<br>②授業概要<br>授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法について説明を行い、政党政治について復習する。C1,D1,E1,J1,K1<br>③予習（120分）<br>教科書『新編　現代政治過程』第８章「政党」を読み、事前に学習ノートをとる。 |

| | |
|---|---|
| | ④復習（120分）<br>授業を振り返り、授業の目的と到達目標を確認する。 |
| 2 | ①授業テーマ<br>圧力団体と圧力政治<br>②授業概要<br>圧力団体発生の要因を理解し、圧力団体と政党の相違について比較する。また、日米の圧力団体の特徴について理解を深めることを目的とする。<br>C1,D1,E1,J1,K1<br>③予習（120分）<br>教科書『新編　現代政治過程』第九章「圧力団体・市民団体」を読み、事前に事前に学習ノートをとる。<br>④復習（120分）<br>授業を振り返り、講義ノートを整理し通読する。 |
| 3 | ①授業テーマ<br>選挙と投票行動①（選挙）<br>②授業概要<br>今日において、多くの国では、政治的リーダーは選挙で選ばれる。ただし、国によって選挙制度は異なる。それに関連して、日本やイギリスなどの選挙制度を学び、選挙の機能や投票の方法について理解を深めることを目的とする。C1,D1,E1,J1,K1<br>③予習（120分）<br>配布した世界の選挙事情に関する資料や教科書『新編　現代政治過程』第四章「選挙制度」を読み、事前に学習ノートをとる。<br>④復習（120分）<br>授業を振り返り、講義ノートを整理し通読する。 |
| 4 | ①授業テーマ<br>選挙と投票行動②（投票行動）<br>②授業概要<br>人びとの投票行動と選挙の行方の関係や投票行動を規定する要因を把握し、投票行動の理論について理解を深めることを目標とする。C1,D1,E1,J1,K1<br>③予習（120分）<br>教科書『新編 現代政治過程』第四章「選挙制度」を読み、事前に学習ノートをとる。<br>④復習(120分)<br>授業を振り返り、講義ノートを整理し、通読する |
| 5 | ①授業テーマ<br>現代政治とマス・メディア<br>②授業概要<br>民主政治は世論の政治とも言われる。その世論を形成していく大変重要なアクターはマス・メディアである。ここでは、事例を取り上げて、マス・メディアと政治の関係などについて理解を深めることを目的とする。C1,D1,E1,J1,K1<br>③予習(120分)<br>教科書『新編 現代政治過程』第十一章「マスメディア」を読み、事前に学習ノートをとる。<br>④復習(120分)<br>授業を振り返り、講義ノートを整理し、通読する。 |
| 6 | ①授業テーマ<br>地方自治と民主主義<br>②授業概要<br>地方自治制度は、地域民主主義を健全化させ、住民福祉を促進させるものである。ここでは、地方自治体と中央政府の関係や地方自治と民主主義の関係に関する知識を学ぶことを目的とする。C1,D1,E1,J1,K1<br>③予習（120分）<br>事前に配布した地方自治制度の関係資料を読み、学習ノートをとる。<br>④復習（120分）<br>授業を振り返り、講義ノートを整理し、読解する。 |
| 7 | ①授業テーマ<br>全体主義体制<br>②授業概要<br>個人主義や民主主義を否定し、個人のすべてを全体に従属させる政治体制である。ナチスドイツなどはその類である。ここでは、事例を取り上げて、全体主義体制の特徴などについて理解を深めることを目的とする。C1,D1,E1,J1,K1<br>③予習（120分）<br>教科書『新編　現代政治過程』第十三章「グローバリゼーションのなかの中国」および事前に配布した全体主義の関係資料（北朝鮮）を読み、学習ノートをとる。<br>④復習（120分）<br>授業を振り返り、講義ノートを整理し、読解する。 |
| 8 | ①授業テーマ<br>権威主義体制<br>②授業概要<br>民主主義体制と全体主義体制の中間領域にある権威主義体制も非民主主義的な政治体制である。1960年代以降登場した発展途上諸国における国家主導型経済開発と強権政治を組み合わせた「開発独裁」も権威主義体制の一形態である。ここで、権威主義体制の特徴、権威主義と全体主義の特徴的な相違について理解を深めることを目的とする。C1,D1,E1,J1,K1<br>③予習（120分）<br>教科書『新編　現代政治過程』第十三章「グローバリゼーションのなかの中国」および事前に配布した権威主義（韓国）の関係資料を読み、学習ノートをとる。<br>④復習（120分）<br>授業を振り返り、講義ノートを整理し、通読する。 |
| 9 | ①授業テーマ<br>行政国家と官僚政治<br>②授業概要<br>政府介入の増大によって、現代国家を「行政国家」化した。こうした現象の進展により、政策の制定などは官僚機構に依存するようになる。ここでは、官僚政治の台頭と問題点について理解を深めることを目的とする。C1,D1,E1,J1,K1<br>③予習（120分）<br>教科書『新編　現代政治過程』第十章「政治家と官僚」を読み、事前に学習ノートをとる。<br>④復習（120分）<br>授業を振り返り、講義ノートを整理し、通読する。 |
| 10 | ①授業テーマ<br>日本の官僚制度の変遷と日本政治<br>②授業概要<br>日本の高度経済成長に寄与した官僚制度に関する歴史的変遷、特徴、それから政策形成過程への影響について理解を深めることを目的とする。<br>C1,D1,E1,J1,K1<br>③予習（120分）<br>教科書『新編　現代政治過程』第五章「官僚制」を読み、事前に学習ノートをとる。<br>④復習（120分）<br>授業を振り返り、講義ノートを整理し、通読する。 |
| 11 | ①授業テーマ<br>主権国家と国際政治理論<br>②授業概要<br>ドイツ30年戦争を終結させたウェストファリア条約によって、主権国家体制を確立した。現在200を超える主権国家によって構成される国際社会はさまざまな問題を抱える。それらの問題発生の原因を説明しようとするのが国際政治理論である。ここでは、国際政治理論の類型および内容について習得することを目的とする。C1,D1,E1,J1,K1<br>③予習（120分）<br>ウェストファリア条約など関係資料を読み、学習ノートをとる。 |

| | | |
|---|---|---|
| | | ④復習（120分）<br>授業を振り返り、講義ノートを整理し、通読する。 |
| | 12 | ①授業テーマ<br>戦後の国際政治①冷戦の起源と拡大<br>②授業概要<br>第二次世界大戦後、冷戦二極構造という特殊な国際システムは米ソをはじめとする東西両陣営の対立を持続させた。ここでは、東西冷戦の発生原因及び過程について理解を深めることを目的とする。C1,D1,E1,J1,K1<br>③予習(120分)<br>事前に冷戦に関係する資料を調べ、学習ノートをとること。<br>④復習（120分）<br>授業を振り返り、講義ノートを整理し、通読する。 |
| | 13 | ①授業テーマ<br>戦後の国際政治②冷戦の終焉と地域紛争<br>②授業概要<br>冷戦後、イデオロギー対立によっての国家間の緊張関係が大幅に緩和されたが、国際社会が新たな危機ー民族浄化を含む地域紛争に直面している。ここでは、地域紛争の発生原因を追究することを目的とする。C1,D1,E1,J1,K1<br>③予習（120分）<br>事前に旧ユーゴスラビア紛争やルワンダのジェノサイドに関する資料を調べ、学習ノートをとる。<br>④復習（120分）<br>授業を振り返り、講義ノートを整理し、通読する。 |
| | 14 | ①授業テーマ<br>戦後の国際政治③アメリカの対テロ戦争<br>②授業概要：2001年9月11日、アメリカで起こった同時多発テロ事件によって、冷戦後に、形成されつつある新たな世界秩序を変え、国際社会に大きな不安を与えた。今日もテロ事件が後をただないため、テロは人類社会にとって最も脅威の一つとなっている。ここでは、テロ発生の原因やテロリズムの類型などについて説明することで、テロ対策を考えることを目的とする。C1,D1,E1,J1,K1<br>③予習（120分）<br>事前に9・11事件やイスラム国を調べ、学習ノートをとる。<br>④復習（120分）<br>授業を振り返り、講義ノートを整理し、通読する。 |
| | 15 | ①授業テーマ<br>総括<br>②授業概要<br>１４回の授業の学びを総括し、期末試験を行う。C1,D1,E1,I1,J1,K1<br>フィートバックの方法：出題意図や試験問題の解答要点などを説明する。<br>③予習(120分)<br>講義ノートを整理し、14回分の授業内容を確認し通読する。<br>④復習（120分）<br>期末試験問題と関連して、自己点検および反省点をまとめる。 |

| | |
|---|---|
| 関連科目 | 政治学１(RMGT/SSCS 1139) |
| 教科書 | 秋山和宏、照屋寛之 編著『新編 現代政治過程』三和書籍 2022年第一版第三刷、ISBN978-4-86251-317-5 |
| 参考書・参考ＵＲＬ | 佐々木 毅『政治学講義』東京大学出版会、2012、ISBN 978-4130322225<br>川出良枝ほか『政治学』東京大学出版会、2012、ISBN 978-4130322195<br>ジョン・L・ガディス『冷戦ーその歴史と問題点』彩流社 2007、ISBN 978-4779112713 |
| 連絡先・オフィスアワー | 連絡先<br>開講時に告知します。<br>オフィスアワー<br>金曜日11：00～12：30 それ以外の時間については、メールにて相談したうえで対応します。 |
| 研究比率 | |

戻る

Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.